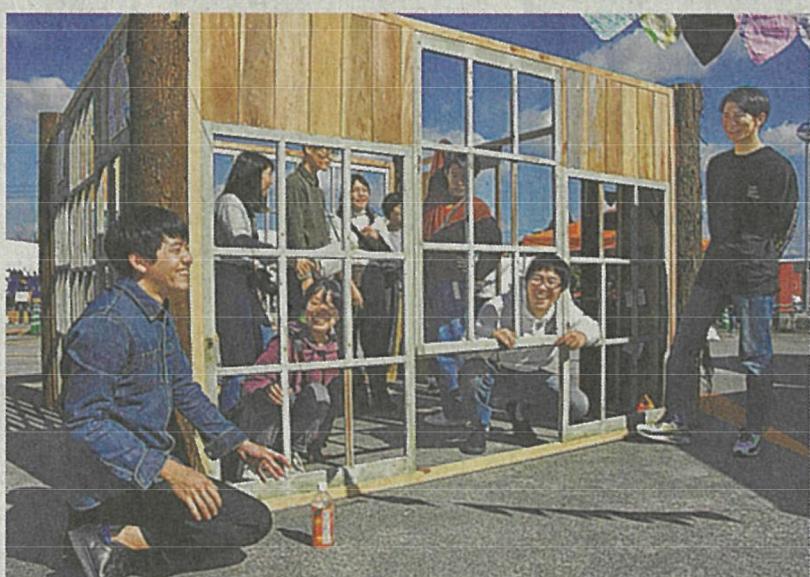


近畿大の学生が光和建設と協力して
作ったオブジェ

3大学・短大と企業コラボ

飯塚市でカレッジフェス

オブジェ制作や名物料理アレンジ



したオブジェを制作した。同社が改修工事を手掛けた嘉麻市内の小学校の古い窓枠やドアを活用。プロジェクトリーダーを務めた同大学院1年の永友裕子さん(22)は「設計士を目指して勉強しているが、普段は机に向かうばかり。企業の人たちが親身にアドバイスしてくれてイメージ通りに作ることができた」と喜んでいた。

飯塚市の飲食店「有門亭」

は、学生たちと意見を交わし、名物「昭和のホルモン鍋」をイタリアン風にアレンジ。同市の「バームハウスマチガミ花店」は学生と一緒に、ドライフラワーを使つたハーバリウム(植物標本)や携帯電話のケースを作る体験教室を開き、多くの人が参加した。

このうち近畿大の学生は、光和建設(嘉麻市)と

飯塚市にある近畿大と近畿大九州短期大、九州工業大の学生と地場企業が協力して考案した料理や雑貨を販売する「飯塚カレッジフェス」が20日、同市枝国のイオン穂波ショッピングセンター駐車場であつた。学生が地域の魅力に気づく。

「思い出の森」をテーマに

(田中早紀)